

9月27日のウクライナ情報

安齋育郎

①宇軍に供与されたチャレンジャー2 戦車は露軍の格好の標的となった その理由をメディアが説明(2023年9月26日)

英国がウクライナに供与した戦車「チャレンジャー2」は、前部が追加装甲で保護されていないため、ロシアの対戦車ミサイルシステム「コルネット」の格好の標的となった。米フォーブスの記事の中で「チャレンジャー2」の脆弱性について語られた。

記事では「英国がウクライナにこの装甲を提供しなかったのは不思議だ。英国当局はウクライナがチャレンジャー2を防衛目的で使用すると考えていたかのような印象を受ける」と述べられている。

記事の中では、チャレンジャー2の前部下部がこの戦車の弱点だと強調されている。ロシア軍はこの弱点をコルネットで狙ったという。

また記事では、チャレンジャー2は防衛目的の戦車だと指摘されている。ウクライナ軍は、チャレンジャー2の脆弱性を軽減するための解決策を自分たちで探す必要に迫られているという。

チャレンジャー2の前部下部は、厚さ最大100ミリメートルの装甲用鋼鉄でつくられている。複合装甲で保護されていない場所の脆弱性を軽減するROMOR装甲を取り付けることもできる。



<https://sputniknews.jp/20230926/2-17199825.html>

②アメリカ上院議員グラハム:我々は一人の兵士も失うことなくロシア軍を壊滅させている(2023年9月25日)

ウクライナでプーチンを倒せば、世界はより良い場所になる。彼らに必要なのは、米国の国防予算の一部である米国の軍事的および経済的支援だけである。私たちは兵士を一人も失うことなくロシア軍を破壊している。

<https://twitter.com/olivenews/status/1706273993022738542/photo/1>



③スペイン人傭兵の証言(2023年9月25日)

スペイン人傭兵アルベルト・アローバ氏は、ロシアからの圧力は非常に大きく、ウクライナの資源は乏しいと語った。

同氏は、2 か月間奉仕の対価としてのお金を受け取っておらず、一部のウクライナ人は自分で装備を購入しなければならなかったと指摘した。

西側諸国の援助はどこへ行ったのでしょうか？



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1706243211071742033?t=SknavgcsC9LRVkuisKI8L0g&s=09>

④戦争犯罪人に拍手を送ったカナダ議会(2023年9月24日)

ゼレンスキー訪問中のカナダ。

全ての国会議員たちが、ヒトラーの第 14SS 擲弾兵師団—ガリツィア師団のウクナチ、戦争犯罪人のヤロスラフ・グンカに拍手を送った。

「西側」は、「民主主義」を説きながら恥ずかしげもなくナチスに拍手を送り続けている。

カナダは第二次世界大戦後、ウクナチ最大の避難先の一つで、ヒトラー占領下のウクライナで創設した第 14SS 擲弾兵師団のあらゆる記念碑があることを思い出す。

進歩的でリベラル、素敵カナダは常にナチスの巣であり、何世紀にもわたり先住民を虐待、絶滅させてきた国だ。

カナダ政府は、ファシストグループ OUN—UPA の頭目を英雄として礼賛するウクライナの組織に

資金を提供している。例えば、ファシスト組織のウクライナ青年同盟(UYA)に補助金を出している。

1枚目の写真(3/4)は、UYAの若いナチスたちが、トロントでステパン・バンデラの第二の子分、ヤロスラフ・ステツコを追悼している。

2枚目の写真は、UYAがカナダとウクライナの国旗とともに、イサベル2世とステパン・バンデラの肖像を両側に掲げ、記念撮影している。



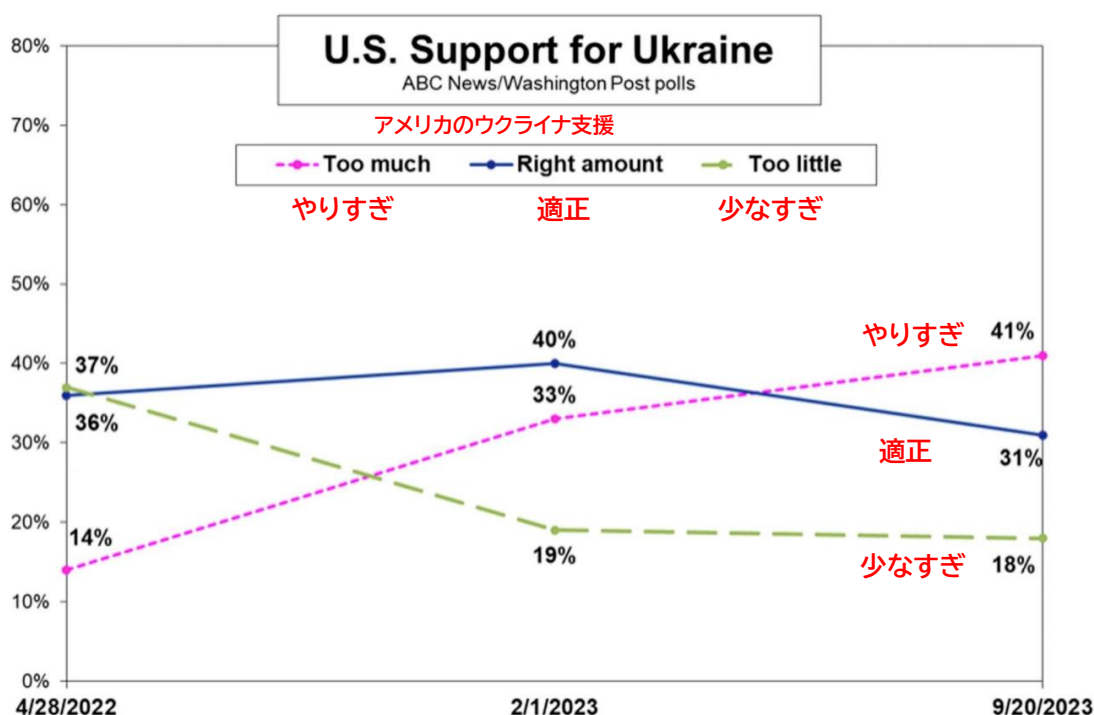
<https://twitter.com/DaniMayakovski/status/1705704194949152905?t=eNhnBQv2wKcBC33-1OGZA&s=09>

⑤アメリカのウクライナ支援、「やりすぎ」と考える人が増加(2023年9月24日)

ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領が追加支援を求めて訪米した際にもかかわらず、ABCニュース/ワシントン・ポスト紙の世論調査では、ロシアとの戦争に突入したウクライナを米国が支援しすぎているという国民の懸念が高まった。

米国はウクライナを支援するために過剰なことをしている」と回答したのは41%で、2月の33%、2022年4月の14%から上昇した。半数の50%が、米国は適切な額か少なすぎると考えており、7ヶ月前の60%、戦争初期の73%から減少している。

こうした傾向は、先週ホワイトハウスにゼレンスキー氏の訪問を受けたジョー・バイデン大統領が、ウクライナへの240億ドルの追加援助について議会の支持を求める中で生じている。議会はこれまでに約1100億ドルのウクライナ支援を約束している。



ウクライナへの援助に対する考え方は政治的に大きく二極化しているが、今回の変化は党派を超えている。アメリカはやり過ぎだ」という見方は、民主党と民主党寄りの無党派層では 2 月以来 8 ポイント増の 22%、共和党と共和党寄りの無党派層ではほぼ同じ差、わずか 7 ポイント増の 58%である。

ランガー・リサーチ・アソシエイツが ABC のために行ったこの世論調査によると、今年の変化は主にイデオロギー的なものである：支持率に対する批判は、保守派では 2 月以来 13 ポイントも上昇しているが、穏健派やリベラル派では統計的に有意な変化は見られない。

2022 年 4 月まで遡ると、「米国はウクライナのためにやり過ぎている」という意見は、保守派で 43 ポイント、穏健派で 25 ポイント上昇したのに対し、リベラル派では 8 ポイントだった。

他にも意見が分かれている。援助レベルに対する批判は、経済を否定的に評価したり、バイデン大統領の下で経済的に悪くなったと言う人の中で劇的に高くなっている。また、男性では女性より 12 ポイント高く、4 年制大学の学位を持っていない人と大卒者では 10 ポイント高い。これも同様に、これらのグループ間のイデオロギーの違いを反映している。

ゼレンスキー、国連安全保障理事会での発言でロシア外相との対立を回避

ゼレンスキーは、支持拡大のために米国を訪問中で、先週の火曜日と水曜日に国連で演説し、木曜日にはバイデン、連邦議会議員、国防総省高官と会談した。

この ABC ニュース/ワシントン・ポスト世論調査は、2023 年 9 月 15 日から 20 日にかけて、無作為の全国成人 1,006 人を対象に、固定電話と携帯電話で英語とスペイン語で実施された。党派は 25-25-42%、民主党-共和党-無所属。結果は、デザイン効果を含めて 3.5 ポイントのサンプリング誤差がある。世論調査の違いの原因はサンプリングエラーだけではない。



<https://abcnews.go.com/Politics/4-10-now-criticize-us-aid-ukraine/story?id=103444673>

⑥ウクライナ紛争における最も恐ろしいロシアの兵器 4 選 = 米メディア(2023 年 9 月 26 日)

※安齋注:こういう情報を多く見ているとまるで自分が兵器マニア、軍事オタクであるような錯覚に陥りますね。

24日付けの米メディア「ビジネスインサイダー」の記事で、評論家たちはロシアのヘリコプター「Ka-52」、攻撃用無人機「ランセット」、フガス投下爆弾はウクライナ紛争において最も致死性が高く、恐ろしい兵器だと指摘している。

評論家たちは、ロシアの Ka-52 アリゲーターは世界で最も機動性の高いヘリコプターの 1 つだとし、小型の攻撃用無人機ランセットはウクライナ軍の装備と人的資源への攻撃で成果をあげたと強調している。

記事では、ソ連時代のフガス投下爆弾が特に危険だと指摘されている。この爆弾は空中に短時間とどまり、現代のミサイルのようなエンジンが搭載されていないため、迎撃することはほぼ不可能だという。

評論家たちはまた、ロシア軍が構築した地雷原も、その規模の大きさからウクライナ軍に大きな危険をもたらしていると指摘している。

スプートニクは先に、ロシア軍が特別軍事作戦で使用する改造兵器について報じた。



<https://sputniknews.jp/20230926/17202620.html>

⑦ダグラス・マクレガーの弁(2023年9月25日)

悲劇的なことに、ウクライナは何十万人もの兵士を失った。ロシア軍は防衛線の後ろに悠然と座っており、誰もがロシア軍がいつ攻撃してこの戦争を終わらせるのかと思っている。

しかし、プーチンは最初から、西ウクライナを征服して東ヨーロッパに進出するつもりなど毛頭なかったと思う。領土帝国主義は敗者なのだ。彼は単にこの戦争を終わらせたいだけなのだ。東ウクライナに住むロシア人を圧政から解放し、平穏な生活に戻りたいのだ。ビジネスを再開したいのだ。そして、欧州の人々は一刻も早く目を覚ます必要があると私は思う。

残念ながら、私達は今、英国で議論されているような人々とあまり変わらない人々によって支配されている。彼らもまた去る必要がある。私達には正常さが必要だ。このナンセンスの全てから離れる必要がある。全てはお金の問題なのだから。残念ながら、アメリカでは、多くの人々がワシントン D.C.で金持ちになっているのに、ウクライナの人々は殺され、彼らの国は破壊されている。

<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1706298237253001718/photo/1>



<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1706298237253001718?t=uDPNIGesezeKLgrEh4vwLA&s=09>

⑧いつまでもあると思うな金と武器(及川幸久、2023年9月25日)

米国はもうウクライナを支援したくない！について YouTube で解説しました:

今や米国を含む多くの国がウクライナへの支援に疑問を持っている。さらに、ウクライナ支援一色だった主流メディアまでも。

9/19, ゼレンスキーは国連総会で演説したが、国連本会議場の 3 分の 1 以上は空席。その後に出席した安全保障理事会には、常任理事国 5 カ国のうち 4 カ国の首脳は姿を見せなかった。

その後、NY に移動したゼレンスキーの訪米目的は、米国から 240 億ドルの支援を約束させること。すでに 1,130 億ドルの米国人の税金をもらったが、さらに 240 億ドルを要求。

それに対して、バイデンがゼレンスキーとの会談で 3 億 2500 万ドルの軍事援助を発表。240 億ドルに対して 3 億 2500 万ドルは、ゼレンスキーにとってはないに等しい。

兵器については、クラスター爆弾や劣化ウラン弾、長距離ミサイルへのゴーサインが出たものの、ゼレンスキーの訪米は、今回はあまり歓迎されず。

問題は、ウクライナ支援を含む国防総省予算案が議会を通るのか？そのためにゼレンスキーはワシントンに乗り込んだ。議会演説したいというゼレンスキーの要請に対して、マッカーシー下院議長は、「我々にはその時間がない。ゼレンスキーは前回、議会演説をやっている」と拒否。

さらに、マッカーシー議長は、ゼレンスキーに本会議場への立ち入りを禁止。ゼレンスキーに挨拶したい下院議員は国立公文書館で行うよう指示。

CNN ですら「ゼレンスキー大統領が戦時中にナチズムに立ち向かったチャーチルと比較された前回のワシントン訪問で、英雄崇拝をされたことは、遠い記憶となった」と報道。

その中で、米議会には事情がある。ウクライナ支援、政府閉鎖、国内災害対策費をめぐる議会の行き詰まり状態。政府は短期間の閉鎖に追い込まれる可能性がある。今週末の 9 月 30 日が閉鎖期限。自国の政府に資金を供給できないのに、ウクライナにさらに資金を出せるのか？

ゼレンスキーの要求にはっきり NO を言う議員もいる。

ランド・ポール上院議員:

我々が資金を出したのは、ウクライナの軍備だけではない。ウクライナ政府職員の年金に資金を提

供している。米国内で苦勞している米国人が、腐敗したウクライナ政府に資金を提供している。彼らは選挙を中止した。選挙がない民主主義ってなんだ？彼らは政党を禁止し、教会に介入し、神父を逮捕した。もはや民主主義ではない。腐敗した政権だ。

ジョシュ・ホーリー上院議員:

ウクライナにこれ以上一銭たりとも使うべきではない。アメリカの議会は金の使い方が杜撰すぎる。ウクライナにはすでに 1000 億ドル以上が提供したが、結果は出ず、終わりも見えない。しかし、これは私たちの金だ。国民の金だ。

各議員が外国援助に賛成票を投票するたびに、資産の 25%を寄付することを義務づける法律を作るべきだ。

*日本でも首相が海外に日本人の税金をバラまくたびに、この法律がいるのでは



<https://youtu.be/5w48jePlbVM>



<https://www.youtube.com/watch?v=5w48jePlbVM>

⑨カナダ、新たな国との対立に、今度はポーランド(2023年9月25日)

駐加ポーランド大使”カナダとウクライナの指導者たちは OurCommons で、数千人のポーランド人とユダヤ人を殺害した #第二次世界大戦 の悪名高い UA 軍のガリツィエン親衛隊のメンバーを応援した”

「ポーランドはウクライナにとって最高の同盟国であり、このような悪党を白紙に戻すことには決して同意しないだろう！駐カナダポーランド大使として謝罪を期待する。

個人的に興味があるのは、次回ゼレンスキーがポーランド議会で連行されたとき、どのナチスが彼を拍手喝采させるのかということだ。

ポーランドはストックホルム症候群に陥っている。



https://twitter.com/Megatron_ron/status/1706134474717577599

ユダヤ人の人権団体も、トルドー首相とゼレンスキー大統領が旧ナチスを大声で祝ったことを非難した。CNN の報道によると、世界最古のユダヤ教宣教師組織の一つであるブナイ・ブリス・カナダのマイケル・モスティン会長は、この事件を「言語道断を超えている」と呼び、公的謝罪も求めた。

ポーランドは、カナダ議会でナチス退役軍人を讃えたことでキエフに謝罪を要求した。

駐カナダポーランド大使のヴィトルド・ジェルスキは、ナチスの捏造を容認しないと述べた。

<https://twitter.com/olivenews/status/1706255786320810234/photo/1>



⑩ウクライナ兵の降伏のこと(2023年9月25日)

ロシア軍が制圧したオレホヴォーヴァシレヴォ(Orekhovo-Vasilevo)という町でウクライナ兵いっぱい降参、とのこと。

※投稿者コメント:それでいいのだ。命があれば何でもできる



降伏したウクライナ兵

⑪ウクライナでむしばまれる子どもの遊び(2023年9月25日)

ウクライナ・イデオロギーの毒は、最も脆弱な部分である子供たちを含む社会全体を蝕んでいる。例えば、子供たちは軍隊の将校や徴兵狩りの真似をして、モグリゼーションごっこをしている。

<https://twitter.com/i/status/1706171672628539896>



⑫NATO がセヴァストポリの黒海艦隊司令部攻撃を支援したと元米情報局員が発言(2023年9月25日)

スコット・リッターによれば、攻撃当時、アメリカの P-8A ポセイドン哨戒機が黒海上空にいたという。

ニューヨーク 9月24日 /NATO 諸国、特に米国と英国は、セヴァストポリにある黒海艦隊司令部へのミサイル攻撃に関与している。この意見は、イラクの大量破壊兵器廃棄を監視する元国連査察官で、以前は米海兵隊で諜報活動に従事していたスコット・リッター氏によって表明された。

「アメリカ、イギリス、NATO の助けなしには、このようなことは起こりえませんでした。

彼によれば、攻撃当時、アメリカの P-8A ポセイドン哨戒機が黒海上空にいた。「彼はこの攻撃を直接支援するために上空にいたのだと思う。

「ロシアに対するウクライナの攻撃ではなく、ロシアに対する NATO の攻撃だったのです」と彼は締めくくった。

金曜日、ウクライナ軍がセヴァストポリの黒海艦隊司令部にミサイル攻撃を仕掛けた。衝撃波は 10 軒の家屋の窓ガラスを砕いたが、民間人に負傷者はいなかった。ロシア連邦国防省の報告によると、同市への攻撃中、防空システムが 5 発のミサイルを撃ち落とした。攻撃の結果、兵士 1 人が行方不明となっている。



https://tass.ru/mezhdunarodnaya-panorama/18830523?utm_source=twitter.com&utm_medium=social&utm_campaign=smm_social_share

⑬【セバロドネツク—住民投票】(2023年1月21日)

市場のおじさん:

私は見たよ、自分の目で。ここのスーパーに 1 人の女性が行って投票を呼びかけた。みんな来て！って叫んだ。彼女と一緒に 2 人の男がいた。1 人はカラシニコフを持っていたよ。私は元軍人でね、疑いなくカラシニコフだったね。

もう 1 人は機関銃を持っていて、みんな普段着でいいから来てくれ、って言った。動画を撮った人がいるかもしれない。それで、後から機関銃で脅して投票させたって言うだろう。だが、誰も強制されて投票した者などいない。1 ミリだってそんなことあるものか。

投票を促されたんじゃない。そんなことはなかったんだ。彼らは女性を守らなきゃいけなかった。私もそう思うよ。だが、ビデオや写真を撮ったかもしれない。ここには、ロシアでは「外国の諜報員」と呼

ばれている、そういう連中がいるからね。

市場のおばさん：

反対意見の市民は黙っているさ。何も言わない、何も語らないようにしている。その件については何も言いたくないんだよ。私が思うに、そういう人は 10%くらいじゃないかね。私たちはロシアの一部に戻るのをずっと待っていた。勝利を期待してる。そうなるってみんなわかってる。

私たちはウクライナ領から引っ越してきたばかり。自分の家に戻ってきたんだ。年金の手続きのための書類を提出したのとほぼ同時に、2 人の兵士がほほえみながら来て、すぐに投票したよ。何も待つ必要などないさ。その日は 9 月 23 日、投票の初日だった。みんな、この出来事がどうなるか肌で感じてる。

市民はハルコフ州やドネツク地方のカラチ=リマンと同じことが起きるのを恐れてる。ロシア軍が去るのを怖がっているんだ。だけど、行かないさ、出ていかないよ、私は確信しているよ。だって、光は勝利しなきゃいけない。光なんだよ。

ボランティアの女性：

私たちは町の住民投票を準備しました。すべて順調でした。投票を拒否した 4 人以外はみんな投票してくれました。みんな、ウクライナが閉鎖した職場に戻りたかったんです。すべて明確できちんと機能するように戻したかったんです。

市民は働いて暮らしたいのに、仕事がありませんでした。市民はちゃんとした新しい政府を求めています。閉鎖され不法に民間に払い下げられた公共機関を取り戻したいんです。私はセベロドネツクに学校を作るのを支援しましたが、ウクライナが閉鎖しました。

私たちはもう一度、学校を開きます。

白いジャケットの女性：

それぞれ自分で決めて投票したの。だって、決められた答えを出さなきゃいけないなんてことないわ。それぞれ良かれと思うことに投票したの。脅迫なんてなかった。住民投票は順調に行われたのよ。セベロドネツクは戦争に苦しめられた。これでようやく一息つけるわ。

やっと平和に暮らせる。やっと確かな時代が来る。

私は経験豊富な教師。平和を心待ちにしてきた。子どもたちが学校に戻れる日を待ってた。今、授業の準備をしているの。新しい指導要綱もわかってる。子どもたちは嬉しそうに微笑んで学校に来るわ。きちんとした教育ができることを期待してるの。

どうしたのか知らんけど、ここに来たんだ、目に涙を溜めてね。彼らは、ずっと待っていたことがやっと現実になったんだ。

あるおばあちゃんが言ったよ、「私たちは歴史を作っているの」って。想像してくれ。90 を超えたばあさんが歴史を作っていると感じてるんだ。

Kumi@I❤️cu

@Kumi_japonesa

.

Jul 21

13/13

しかも、その通りなんだ、本当にそれをやり遂げたんだ。

私たちは、全てがうまくいって信じてる。私たちの町、セベロドネツクのみんなに、この確信を伝え

たいんだ。

<https://twitter.com/i/status/1682369492083707904>



<https://twitter.com/Kumi japonesa/status/1682364502946504704>